

編集後記

投稿規定を改訂し、判型が変わってから1年余り経った。少しずつ定着し、いや浸透しつつある。投稿規定の改訂で思い出すのは編集委員だった先輩たちである。日本医史学雑誌の編集に尽力され、より良い投稿規定の改訂に腐心された先生たちが最近相次いで亡くなられた。平成13年(2001)には、編集委員だった大村敏郎先生、平成18年(2006)には編集委員長だった三輪卓爾先生、平成20年(2008)には、三輪先生の前に編集委員長になっていた矢部一郎先生、昨年、平成21年(2009)には編集委員だった大塚恭男先生と編集委員として現役だった中西淳朗先生が他界された。日本医史学雑誌の礎を築いて下さった亡き元編集委員の先生方に感謝すると共に御冥福をあらためて祈ります。

今年の6月、第111回日本医師学会総会が真柳真会長、瀧澤利行実行委員長の御尽力で茨城大学(水戸市)で開催される。総大会前日の6月11日(金)には、日中韓医史学会合同シンポジウムが行われる。前日から参加できるよう、今から予定を入れておきたいものです。

(蔵方 宏昌)